

タイトル 世界目線の取り組みを

掲載日 2010年01月19日(火)

掲載紙誌名 日本海新聞

掲載面 日刊 一面



## 世界目線の取り組みを 尾池氏、ジオパークで指摘

日本海政経懇

山陰海岸ができた原理を理解し、世界を意識したジオパークづくりを呼び掛ける尾池氏(左) = 18日、鳥取市永楽温泉町のホテルモナーク鳥取

日本海政経懇話会(新日本海新聞社主催)の東部特別例会が18日、鳥取市永楽温泉町のホテルモナーク鳥取であった。日本ジオパーク委員会委員長の尾池和夫氏が「日本のジオパークがめざすもの」と題して講演し、平井伸治鳥取県知事らとパネルディスカッションを繰り広げた。尾池氏は山陰海岸の多様な地質の貴重性を強調し、世界的な研究を生むための若い学者の養成など、世界目線の取り組みの必要を説いた。

尾池氏は日本海の形成が地球史上、極めて新しく、その形成過程を物語る山陰海岸の地質は「学術的にも大きな意味を持つ」と指摘。その上で、世界から注目されるには「新しい学術的成果が生まれる環境をつくる必要がある。研究費を助成するなど世界の学者の目を引く取り組みを」と提言した。

一方、平井知事はこれまで山陰海岸の独特の地形が多く、文学やズワイガニなど豊富な水産資源を生み出してきた点を挙げ、「食や文学との出会いもテーマに含めれば、他のジオパークとは違う楽しさも味わえるのでは」と、観光振興の新たな切り口として期待を込めた。

また、山陰海岸ジオパーク推進協議会会長の中貝宗治兵庫県豊岡市長は、地質を専門とする職員を新たに協議会に迎えるなど、事務局機能を強化する考えを示し、「ガイドの養成などを進め、世界の仲間入りをしても恥ずかしくない体制を築きたい」と語った。

特別例会には会員約130人が出席した。